

厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業  
難治性炎症性腸管障害に関する調査研究  
分担研究報告書

**潰瘍性大腸炎周術期血栓塞栓症のスクリーニングの前向き研究（中間報告）**

研究協力者 板橋 道朗 東京女子医科大学第二外科 准教授

研究要旨：本邦における潰瘍性大腸炎症例(UC)手術患者の血栓塞栓症(VTE)発症率を前向きに調査し積極的スクリーニングの必要性を検証、リスク因子を検証する。UCを対象として、手術前に積極的VTEのスクリーニングおよび術後2週間でのVTE発症の有無を調査した。平成25年2月1日から平成26年12月31日までにUC手術例145例が8施設登録された。UC周術期のVTE合併は145例中15例(10.3%)であった。UC周術期のVTE合併は145例中15例(10.3%)であった。UC周術期のVTEの発症頻度は欧米の後ろ向き研究で1.2-4.2%とされているが、本邦での発症率は不明である。本研究では、従来の報告よりもかなり高頻度であることが解明された。今後、詳細な検討を行いUC周術期のVTE発症のリスク因子を解明し、周術期のスクリーニングおよび予防策が必要であると考えられる。

共同研究者

亀岡信悟（東京女子医科大学第二外科）  
小川真平（東京女子医科大学第二外科）  
杉田 昭（横浜市民病院炎症性腸疾患科）  
池内浩基（兵庫医大 IBD センター）  
木村英明（横浜市大市民総合医療センター）  
二見喜太郎（福岡大学筑紫病院外科）  
藤井久男（奈良医大外科）  
根津理一郎（西宮市立中央病院外科）  
福島浩平（東北大学外科）

A. 研究目的

周術期の血栓塞栓症（以下、VTE）は、発症頻度は低いものの肺塞栓症（以下、PE）を発症した場合の死亡率は高率であることが知られている。欧米の報告では炎症性腸疾患(以下、IBD)患者は、VTE発症の高リスクとされているが、本邦での報告は少数例の症例集積のみである。そこで、本邦におけるUC手術患者のVTE発症率を前向きに調査し積極的スクリーニングの必要性を検証、リスク因子を検証する。

B. 研究方法

平成25年2月1日から平成26年12月31日までに研究参加施設で手術が施行された潰瘍性大腸炎症例を対象として、手術前に積極的VTEのスクリーニングおよび術後2週間でのVTE発症の有無を調査した。VTEの既往があるもの、下肢静脈瘤があるもの、また、術前Dダイマーを測定して基準値より上昇している症例では下肢静脈超音波検査または造影CT検査を術前に行った。

同時期の一般外科手術症例をコントロールとして比較を行う。術前のリスク因子により、超低リスク、低リスク、中リスク、高リスクの4群に分類して層別化を行った。

（倫理面への配慮）

本研究のすべての担当者は、「ヘルシンキ宣言（2008年10月修正）」および「臨床研究に関する倫理指針（平成20年7月31日改正、以下臨床研究倫理指針）」を遵守して実施する。研究実施に係る試料等を取扱う際は、被験者の個人情報とは無関係の番号を付して管理し、被験者の秘密保護に十分配慮する。研究の結

果を公表する際は、被験者を特定できる情報を含めないようにする。また、研究の目的以外に、研究で得られた被験者の試料等を使用しない。

#### C. 研究結果

平成 25 年 2 月 1 日から平成 26 年 12 月 31 日までに UC 手術例 145 例が 8 施設登録された。年齢は平均 44.7 歳、術式は回腸囊肛門吻合術 63 例、回腸囊肛門管吻合術 46 例、全大腸切除・回腸永久人工肛門造設術 9 例、その他 25 例であった。UC 周術期の VTE 合併は 145 例中 15 例 (10.3%) であった。

#### D. 考察

UC 周術期の VTE の発症頻度は欧米の後ろ向き研究で報告されているのみで、その頻度は 1.2~4.2%とされている。しかしながら、本邦での発症率は不明であり、少数例の後ろ向き研究があるのみである。前向き研究により、本邦における UC 周術期の VTE の発症頻度とリスク因子を解明することを目的とした。本研究では、従来の報告よりもかなり高頻度であることが解明され、UC 周術期の VTE 合併は 145 例中 15 例 (10.3%) であった。今後、詳細な検討を行い UC 周術期の VTE 発症のリスク因子を解明する予定である。

#### E. 結論

UC 周術期の VTE 合併は従来の報告よりも高頻度であり 10.3%であった。周術期のスクリーニングおよび予防策が必要であると考えられる。

#### F. 健康危険情報

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

1) Kazuha HATTA, Shimpei OGAWA, Satoru

SHIMIZU, Michio ITABASHI and Shingo KAMEOKA: Preoperative D-dimer Measurement for Assessment of Venous Thromboembolism in General and Abdominal Surgical Cases. J Tokyo Wom Med Unive 84(Extra3) E397-E405, 2014

2) Michio ITABASHI, Sayumi NAKAO, Yoshiko BAMBA, Takuzou HASHIMOTO, Tomoichiro HIROSAWA, Shinpei OGAWA and Shingo KAMEOKA: The Distribution of Mucosal Inflammation in Resected Specimens from Patients with Refractory Ulcerative Colitis. Tokyo Wom Med Unive 84(Extra3) E338-E341, 2015

3) Michio ITABASHI, Yoshiko BAMBA, Takuzo HASHIMOTO, Tomoichiro HIROSAWA, Shinpei OGAWA and Shingo KAMEOKA: Short-term outcome of restorative proctocolectomy using Hand-Assisted Laparoscopic Surgery for Ulcerative Colitis. Tokyo Wom Med Unive 84(Extra3) E331-E337, 2015

4) Michio ITABASHI, Sayumi NAKAO, Yoshiko BAMBA, Takuzou HASHIMOTO, Tomoichiro HIROSAWA, Shinpei OGAWA and Shingo KAMEOKA: A case of pneumatosis cystoides intestinalis in a patient with Crohn's disease. Tokyo Wom Med Unive 84(Extra3) E424-E429, 2014

5) Yoshiko BAMBA, Michio ITABASHI, Sayumi NAKAO, Kazuha HATTA, Takeshi IHARA, Mamiko UBUKATA, Sanae KAJI, Takuzo HASHIMOTO, Tomoichiro HIROSAWA, Shinpei OGAWA, Akira SHESHIMO and Shingo KAMEOKA: Risk Factors of Osteoporosis in Patients with Ulcerative Colitis Following Restorative Proctocolectomy. Tokyo Wom Med Unive 84(Extra3) E360-E364, 2014

6) Takuzo Hashimoto, Michio Itabashi, Shinpei Ogawa, Tomoichiro Hirose, Yoshiko Bamba, Sanae Kaji, Mamiko Ubukata,

Sayumi Nakao, Shingo Kameoka: A treatment strategy for preventing pouchitis as a postoperative complication of ulcerative colitis: the significance of the management of cuffitis. Surg Today 44: 1730-1734, 2014

## 2. 学会発表

1) 中尾紗由美、板橋道朗、番場嘉子、橋本拓造、廣澤知一郎、小川真平、亀岡信悟、藤盛孝博：当科における Colitic cancer の臨床学的検討 第 69 回日本大腸肛門病学会総会 2014 年 11 月 7 日、8 日 横浜

2) 廣澤知一郎、中尾紗由美、産形麻美子、加治早苗、番場嘉子、小川真平、板橋道朗、亀岡信悟：LAC で難渋する IBD 症例における HALS の位置づけ 第 69 回日本大腸肛門病学会総会 2014 年 11 月 7 日、8 日 横浜

3) 中尾紗由美、板橋道朗、番場嘉子、橋本拓造、廣澤知一郎、小川真平、亀岡信悟：Crohn 病に対する HALS の有用性 第 114 回日本外科学会定期学術集会 2014 年 4 月 3-5 日 京都

## H. 知的財産権の出願・登録状況

### 1. 特許取得

なし

### 2. 実用新案登録

なし

### 3. その他

なし